

## はじめに

第 14 回地域がん登録全国協議会総会研究会ならびに実務者研修会を平成 17 年 9 月 2・3 両日にかけて、国立がんセンターにおいて開催させていただきました。お陰をもちまして、総会研究会には 250 名、実務者研修会には 176 名の方々の参加をたまり、盛会のうちに終了することが出来ました。皆様方のご協力・ご支援に感謝致します。一方、会場が 200 名で満席でしたので、多くの方々にかなり窮屈な思いをおかけすることになりました。この場を借りてお詫び申し上げます。

国立がんセンターでは地域がん登録の実務を担当しておりませんし、開催地である東京都も残念ながら地域がん登録を実施するには至っておりません。従って、これまでの実績に基づいて地域の実情を紹介するというプログラムを設定することは不可能でした。そこで、今回の総会研究会では、国際がん登録学会理事長の Max Parkin 先生と、韓国国立がんセンターの辛海林 ( Hai-Rim Shin ) 先生をお招きして、諸外国の地域がん登録の実情を学ぶという企画をいたしました。講演は英語で行なわれたので、やや理解しづらい点があったかと思いますが、Parkin 先生の講演の中で日本の登録精度が先進国の中では最も低いと指摘されたこと、また、辛先生の講演で、韓国においては国レベルの地域がん登録が高い精度を持って完成しつつあると報告されたことは、聴衆として参加されていた方々に強いメッセージとして伝わったものと思います。

午後は、大島理事長の教育講演として「地域がん登録における機密保持ガイドライン」の話をいただき、シンポジウムとしては「院内がん登録、地域がん登録の連携」と題として、津熊先生 ( 大阪府立成人病センター )、西野先生 ( 宮城県立がんセンター )、西本先生 ( 大津赤十字病院 )、猿木先生 ( 群馬県立がんセンター ) にご発表いただきました。また、通常のポスターによる発表 14 題に加えて、企業ブースのコーナーを設け、地域がん登録・院内がん登録にかかわるシステム紹介の場を設けました。

明るく日の実務者研修会では、第 3 次対がん祖父江班での取り組みを紹介する内容として、「全国がん罹患集計の進捗状況」を丸亀先生に、「地域がん登録の標準化」にかかわる話題を、味木先生 ( 大阪府立成人病センター調査部 )、柴田先生 ( 山形県立がん・生活習慣病センター )、片山先生 ( 財団法人放射線影響研究所 ) にお願いました。前日のシンポジウムと合わせて司会を担当してもらった金子先生は、10 月 1 日をもって長崎大熱帯医学研究所の教授に栄転され、これが地域がん登録にかかわる仕上げの仕事となりました。

実は、この直後 ( 9/13 - 15 ) にウガンダで行われた国際がん登録学会でも、Parkin 先生、辛先生にお会いし、そこでも韓国の躍進ぶりに圧倒されっぱなしでした。日本の置かれた現状を直視し、遅れを取り戻すために地域がん登録関係者が一丸となって協力し合う時期にあることを再認識させられました。

平成 17 年 5 月に尾辻厚生労働大臣を本部長として設置されたがん対策推進本部より、平成 17 年 8 月末に「がん対策推進アクションプラン 2005」が公表されました。その中で、国立がんセンターに設置が予定されている「がん対策情報センター（仮称）」の機能として「がんサーベイランス機能」が明記され、地域がん登録、院内がん登録などの支援や全国集計がその内容として盛り込まれています。こうした動きの中で、ここ数年は地域がん登録の仕組みが大きく変化することが予想されます。地域がん登録実施側としての本協議会が、一致団結して事態に対処できるように、関係者の方々のさらなるご協力をお願い致します。

（祖父江 友孝）